

# カナエスーパープライマー

～ 一液形特殊変性高分子エポキシ樹脂系 ～

## ■ 鉛・クロムフリー塗料

## ■ ホルムアルデヒド放散等級 (F☆☆☆☆) (K07055)

### ■ 特徴

#### 1) 【幅広い密着性】

鉄、アルミ、ステンレス、亜鉛メッキなどの様々な基材への密着性に優れます。

#### 2) 【高防錆】

高い防食性を有します。

#### 3) 【速乾性】

ラッカー並みの超速乾性です。

#### 4) 【美しい仕上がり外観】

滑らかで美しい塗膜外観が得られるため、上塗り塗膜も非常に美しい仕上がりになります。

#### 5) 【幅広い上塗り適性】

フタル酸系～2液形ウレタン系、焼付メラミン系まで幅広い上塗りに適用できます。

### ■ 用途

一般鋼材、ステンレス、アルミ、亜鉛メッキ等の下塗り  
建材、自動車関連、家庭電器、配電盤、農機具等

### ■ 塗料性状

色	ホワイト、ライトグレー
密度 (g/cm <sup>3</sup> )	1.22
引火点 (°C)	27
有機溶剤中毒予防規則	非該当
消防法区分	第2石油類
荷姿	4kg、16kg

\* 上記の塗料性状の数値は標準を示すものであり、色やロット等により変動があります。

### ■ 適用上塗り

フタル酸系 : Re; エコ TC#ホープフル、リルカ#54

二液形ウレタン系 : ウレテックス#800H

焼付メラミン : メルカ各種

### ■ 使用上の注意

- 本来の用途以外には使用しないでください。
- 塗料を使用する前には十分に攪拌し、均一にしてからご使用ください。
- 塗料を取り扱う際には、必ず保護具を着用し皮膚や目に接触しない様にしてください。
- 塗装は換気の良い場所で行ってください。
- 塗装する際には、火気や静電気の発生源となるものを避けてください。
- 熱/火花/炎/高温のもの様の着火源から遠ざけてください。
- 保管する場合は、空気に接触しないように容器を密封してください。
- 塗装中、乾燥中とも換気を良くし、蒸気を吸い込まない様にしてください。
- 飲み込んだ場合、口を多量の水ですすいだ後、医師に連絡してください。
- 皮膚に付いた場合、多量の水と石鹸で洗ってください。
- 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当を受けてください。
- 眼に入った場合、多量の水で十分に洗い流した後、直ぐに医師の診断を受けてください。
- 塗装前に塗装対象の材質に合わせた下地処理を行ってください。
- 塗料の乾燥時間や硬化時間を守ってください。
- 降雨、降雪のおそれがある場合、強風時は塗装を避けてください。
- 必ず専用シンナーをご使用ください。
- 上塗りに2液形ウレタンや焼付メラミンなどを塗装され、上塗り塗膜の研磨等を行った後にタッチアップを行うとチヂミが起きる可能性があります。
- 使用期限の切れた塗料は使用しないでください。
- 容器に記載の注意事項を守ってください。
- 詳細な安全情報についてはSDSをご参照ください。
- 製品の改良により内容を変更する場合があります。

### ■ 使用方法

塗装方法	エアスプレー	エアレススプレー
気象	温度5°C以上	湿度80%以下
素地調整	ディスクサンダー、ワイヤーブラシ、スクレーパーなどでサビや黒皮を除去する。油脂分やグリース、ほこり等の付着物や水分は完全に除去し、塗装面を清浄にする	
希釈シンナー	標準 : スーパープライマー シンナー 速乾 : スーパープライマー#100 シンナー	
希釈率	25～35%	15～25%
理論塗布量	115 g/m <sup>2</sup>	
標準膜厚	(Dry) 25～35 μm	
標準塗装回数	1回	

\* その他シンナーについては、営業担当者へお問い合わせください。

### ■ 基材適性

SPCC(ガル鋼板)	○	ガルバニウム	○
SPHC(黒皮鋼板)	○	ペンタタイト	○
リン酸亜鉛処理	○	アルミニウム合金(5052)	○
ZAM鋼板	○	ステンレス(304)	○
ボンデ鋼板	○	ステンレス(430)	○

\* 金属の種類によっては、その表面状態により密着性が劣る場合がありますので、事前に確認される事をお薦めします。  
また、前処理(化成処理)を施す事で安定な密着性が得られます。

### ■ 乾燥時間

温度	5°C	20°C	30°C
指触乾燥	20分	10分	5分
半硬化乾燥	30分	20分	10分
重ね塗り 乾燥時間	最短	30分	10分
	最長	7日	

\*1 乾燥時間は目安であり、性能を保証するものではありません。

膜厚、湿度などの塗装・乾燥条件によって変動があります。

\*2 重ね塗り前の塗装面に、層間密着性を阻害する物の付着やチョーキングが確認される場合は、それらの除去だけでなく充分な目荒らしを行ってください。

\*3 重ね塗り乾燥時間の最長を超える場合は、層間密着性を確保する観点から、必ずサンドペーパーなどで目荒らしを行ってください。